

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断理論Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	70時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	様々な着物の裁断がスムーズにできるようになる。		
授業概要	産学協同システムの実習課題を使用して、伝票の読み取りから見積、引き合いまで、自分自身の判断が正しいかを教員に教授を受ける		
到達目標	産学協同システムの実習課題を経験を基に自分自身で判断できる。		
授業計画	70時間 裁断講義(産学協同システム)		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断実習Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	180時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの実習教材の裁断ができるようになる。		
授業概要	産学協同システムの実習課題を使用して、実践的な加工指図書から様々な種類・素材・柄・体型を踏まえて裁断ができるようになる。		
到達目標	産学協同システムの実習課題を使用して、実践的な加工指図書から様々な種類・素材・柄・体型を踏まえて裁断ができるようになる。		
授業計画	180時間 裁断実習(産学協同システム)		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・被服材料講義Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	20時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	和服地の様々な絹の扱いを理解する。		
授業概要	和服地の様々な絹の扱い方や特殊素材の扱い方を講義と演習を通して理解する。		
到達目標	和服地の絹の扱い方や特殊素材の扱い方を理解する。		
授業計画	20時間 扱い方講義(産学協同システム)		
評価方法	出席状況・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・裁縫理論Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	40時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	半反物(羽織・コート・半天)の作り方を理解するため、基礎練習や部分縫いを通して理解する。		
授業概要	半反物(羽織・コート・半天)の作り方を理解するため講義を行い、基礎練習や部分縫いの実習を行う。		
到達目標	袷羽織・半天の作り方がわかる。コートの基本的な衿型の作り方がわかる。		
授業計画	20時間 コート各種の衿型部分練習 10時間 袷羽織の作り方 10時間 半天の作り方		
評価方法	出席状況・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・製作実習Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	198時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ・きものⅡ (大原和服専門学園)
授業目的	半反物(羽織・コート・半天)の縫製手順を理解する。		
授業概要	自己教材を利用して羽織・コート・半天の課題製作実習をおこなう。		
到達目標	半反物(羽織・コート・半天)の縫製手順を理解する。		
授業計画	<p>58時間 コート各種の衿型部分練習</p> <p>70時間 袷羽織の作り方</p> <p>70時間 半天の作り方</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・講義Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	44時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ・きものⅡ(大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの実践的な課題の扱い方を理解する。		
授業概要	基本製作で学んだ着物の縫製を、産学協同システムの実践的な課題の扱い方を理解する。課題製作の課題の実習前に、伝票の確認及び製作についてその都度教授を受ける。		
到達目標	○産学協同システムの課題の扱い方が理解している。○伝票を理解できる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認できる。		
授業計画	<p>4時間 単衣長着制作</p> <p>19時間 袷長着制作</p> <p>19時間 半反物制作</p> <p>4時間 その他課題制作(浴衣・襦袢等)</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・実習Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	778時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ・きものⅡ(大原和服専門学園)
授業目的	和裁の実践力を身に付ける。		
授業概要	産学協同システムの実践的な課題の実習を通して、和裁の実践力を身に付ける。		
到達目標	○伝票を理解し、間違いなく縫製ができる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認し実習をすすめることができる。○課題提出日を守る事ができる。		
授業計画	<p>190時間 単衣長着制作</p> <p>330時間 袷長着制作</p> <p>100時間 半反物制作</p> <p>140時間 その他課題制作(浴衣・襦袢等)</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・講義Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	54時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	国家技能検定和裁技能士2級の規定時間内で袷長着が一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
授業概要	国家技能検定和裁技能士2級の規定時間内で袷長着が一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
到達目標	国家技能検定和裁技能士2級の規定時間内で縫い上げるための課題を考えることができる。		
授業計画	54時間 袷長着制作		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・実習Ⅲ		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	156時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	安田有希	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	国家技能検定和裁技能士2級の合格を目指して練習を行う。		
授業概要	国家技能検定和裁技能士2級の合格を目指して規定時間内に完成できるように反復した練習を行う。		
到達目標	国家技能検定和裁技能士2級の規定時間内に袷長着をつくることできる。		
授業計画	156時間 袷長着制作		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	着装Ⅲ		
年次	和裁専攻科・1年次	時間数	20時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	他装の技術を訓練する。振袖や男性着付け、花嫁着付けができるようになる。		
授業概要	2年時の復習から始まり、着付け技能士2級の国家試験受験に向けて練習する。またより高度で専門的な着装にも触れ、花嫁着付けや男性の紋付袴着付けなど他装の技術を磨く。		
到達目標	他装の技術を身につけ、様々な着付けができるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 伊達衿の使い方とお太鼓系のアレンジ 2 留袖の着付けと二重太鼓 自装の復習 3 検定課題、寸法の取り方、補正と長襦袢着付け 4 検定課題、訪問着の着せ方 5 国家技能検定着付け技能士2級受験対策 6 2・3・4年生合同 浴衣の着せ方 7 振袖着付けと変わり結びの復習、帯揚げと帯締めのアレンジ 8 検定課題、リハーサル前練習 9 国家技能検定着付け技能士2級受験対策リハーサル 10 国家技能検定着付け技能士2級受験対策 11 花嫁着付け 12 花嫁着付け 13 男性着付け 袴の着付けとたたみ方 14 振袖着付けと着崩れの直し方 15 テスト前練習 16 実技テスト 17 女袴の着付け(復習) 		
評価方法	出席状況・実技試験・授業態度		

授業科目名	キャリア学習		
学科・年次	和裁専攻科・1年次	時間数	5時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原敏敬	テキスト	-
授業目的	最終学年の進路活動スケジュールを知り、会社の仕組みや着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事について知り、自分の適性に合わせた進路を考えられ行動できるようになる。		
授業概要	段階的に自分の適性に合った進路を考えられるようになるため○最終学年の進路活動及びスケジュール○学園の就職活動にかかわる手続き○着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事理解○会社の仕組み○会社の調べ方○自己分析の方法など講義を通して理解できるようにする。		
到達目標	○自分の適性に合った進路先を調べ考えられるようになる。		
授業計画	<p>1回 昨年の進路状況と就職活動と自己分析について</p> <p>2回 業界・会社の仕組みを知る。会社情報の収集方法を知る。</p> <p>3回 学校での就職のすすめ方について</p>		
評価方法	出席状況		

授業科目名	校外学習		
学科・年次	和裁専攻科 1年次	時間数	13時間
授業方法	校外学習	実務教員科目	
担当	各担任	テキスト	なし
授業目的	古都奈良・京都で五感を通して日本文化や着物についてフィールドワークで学ぶ		
授業概要	古都奈良・京都は古い木造建物も多く、着物を着る観光者も増えているため、着物ユーザー目線を養うとともに着付けの練習機会として着物を着る機会として活用し、日本文化や着物に関する施設等を訪問し、学園で学んでいる着物を多面的にとらえられるように校外学習を実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○着物を着て外出できる。 ○着物をつくることと着物を着ることのつながりを考えられるようになる。 ○日本文化や着物に関することを学ぶ 		
授業計画	<p>1回 京都御所見学</p> <p>2回 工房・きもの展覧会見学</p>		
評価方法	出席状況・提出物		